

1. 6 環境配慮行動啓発活動

1. 6. 1 京都大学環境ファクトシート エコ 〜るど京大 2022 報告

エコ〜るど京大は、様々な学部・研究科の学生と教職員の有志が、環境問題や SDGs をテーマに活動するネットワークである。「持続可能なキャンパス（サステナブルキャンパス）」の実現や、SDGs を「自分ごと化・みんなごと化」して考えることを目指しており、大学生や先生だけでなく、社会人や小中高校生、留学生、さらには地域住民も巻き込みながら、様々な企画を実施している。

2022 年度においては、それ以前の年度の取り組みを継続しつつ、新たな企画も加えて実施してきた。特に、メディア・イベントへの出演がこれまでよりもやや増え、対外的な発信を行うことが多い年度となった。以下では、エコ〜るど京大が今年度行った取り組みを紹介する。

【創立 125 周年アカデミックマルシェ】

京都大学の創立記念日である 2022 年 6 月 18 日に、京都大学創立 125 周年を記念してローム・スクエアにて開かれた「創立 125 周年アカデミックマルシェ」に「地球環境学堂・浅利美鈴研究室」として出展した。

出展内容は、箸袋、ティッシュケース、箸を作る体験の提供と、京北の女性林業グループ「樹々の会」のクロモジ加工商品の販売であった。箸袋とティッシュケースの布には、一般の方々からご寄付いただいたたんすの中に眠っていた着物のうち、シミやヤケのひどいものを、解いて、農学研究科産業微生物学講座の竹内道樹先生らのご協力によって藍染めしたものを使用した。また、箸の材料には京都の里山・京北の名産品である北山杉を用いた。

ブース内には活動紹介の他、アップサイクルや日本の林業の現状、里山の課題などについてのパネルを設置した。当日は多くの方が体験に訪れ、体験を通してより深くそれらについて考えるきっかけを提供できた。

藍染めを行っている様子



【第 3 期京都大学 SDGs リーダー育成プログラム】

持続可能な社会を形成する際には、周囲を巻き込み行動できる地域のリーダーが必要である。そのような人材育成を目指した中高生向け教育プログラム「第 3 期京都大学 SDGs リーダー育成プログラム」の運営に、エコ〜るど京大も携わった。2022 年度に展開した第 2 期同様、6 月から次の年の 3 月にわたる長期的なプログラムであり、約 1 年かけてじっくりと SDGs や持続可能性について触れ議論をする場を提供してきた。

このプログラムは主として、Zoom を用いたオンラインコンテンツと、実地研修の二本柱で構成されている。オンラインコンテンツでは、講師による講義とディスカッションを行う「オンラインゼミ」、各界の方の議論を聞き答えのない問いについて考える「SDGs 問答」、自分史を紐解きグループワークを重ねながら、自分が本当にやりたいことや大切にしたい価値とは何かを考えることを目指す「特別ゼミ」（Adecco 提供）を実施した。特に、オンラインゼミでは、牧瀬稔氏（関東学院大学准教授）、細尾勝氏（京都府立北桑田高校教諭）、浅利美鈴氏（京都大学准教授）の 3 名から、それぞれ地域社会の未来を考える上で不可欠なことで、直面せざるをえない現状についてレクチャーいただいた。普段の学校での授業では中々触れることがない内容を学び、受講生たちの社会への理解度、解像度の向上につながった。

実地研修は、現場に触れることで、新たな気づき・学びを得ることに主眼を置いている。2022 年 8 月 7 日から 9 日にかけて 2 泊 3 日の宿泊型研修「京北合宿」を、京都の里山・京北地域で実施した。現地では、地

域住民の方との座談会や、北桑田高校に協力していたき林業体験ワークショップを開催した。特に林業体験ワークショップでは、3 班に分かれて森林での間伐・伐採、材木の製材、木製品への加工といった林業の各プロセスを経験させていただくなど、受講生たちにとって非常に貴重な体験となった。他にも、1 day の実地研修として、さすてな京都（京都市南部クリーンセンター環境学習施設）の見学、JST サイエンスアゴラの見学、京北での茅刈体験を提供した。

2023 年 3 月 11 日には、京都大学吉田キャンパスにて最終成果発表会を実施した。最終成果発表会の題は、「対象とする具体的な地域を、次から一つ選び、その地域を持続可能にする仕組みを提案」することとした。これまでのオンラインコンテンツと実地研修での学びを活かして、多面的な議論を展開することを目指した課題設定とした。この最終成果発表会に向けて、2022 年 11 月より班分けを行い、グループワークを実施した。エコ〜るど京大のメンバーも大学生メンターとして各班の議論に参加し、様々な検討を通じて班の提案を完成させていった。また、中には自ら追加の実地調査に向く班もあり、目標に向かって計画を立てて実行する姿が垣間見えた。発表会当日はポスターセッションを行い、各班のポスターが並ぶ中、自分たちのアイデアを丁寧に説明する様子が見て取れた。更に、至る所で積極的な質疑応答がなされており、1 年間のプログラムの集大成として十分意義のある発表会になっていた。

林業体験の様子



最終成果発表会のポスターセッションの様子



【地球環境ユースサミット 2023 in KYOTO】

地球環境ユースサミット 2023 in KYOTO（英語：Earth Youth Summit 2023 in KYOTO）は、2023 年 3 月 21 日から 23 日に、京都市京北地域の京都府立ゼミナールハウス「あうる京北」において実施した、世界中のユースが地球環境の持続可能な未来について議論する場を提供することを目指した企画である。京都超 SDGs コンソーシアムが主催であり、京都府の共催で開催した。なお、後援は京都商工会議所、京都工業会、環境省、徳島県、広島県、広島市、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会、国立研究開発法人科学技術振興機構であり、協力／協賛は、関西外国語大学、京都外大西高等学校、大和リース（株）、（株）日本旅行、（公財）旭硝子財団、（一社）HAPPY EARTH であった。また、エコ〜るど京大のメンバーやその卒業生も協力して企画の構想と運営を行った。

ユースサミット当日は、参加希望があった約 150 名のうち、日本に在住している 71 名がオンサイトで参加し、他の参加者は世界各国からオンラインでの参加となった。オープニングでの酒井伸一先生（京都高度技術研究所理事・副所長／京都大学名誉教授）の挨拶と、京都府の山下晃正副知事による基調講演に続き、アイスブレイクを行った後に、参加者は、①炭素中立（Carbon Neutral）、②資源循環（Resource Circulation）、③生物多様性（Biodiversity）、④多様性・平等・包括性（Diversity, Equality and Inclusion）、⑤持続可能な開発目標（SDGs）、⑥持続可能性な暮らし（Sustainable Life）の 6 つのテーマに分かれて議論を行った。エコ〜るど京大のメンバーは主に、それぞれの班でメンターを務め、議論をサポートした。3 日間のプログラムには、議論の他にも、

環境省による特別講演、ウクライナとインドの研究者によるメッセージの時間も設けた。また、オンサイトの参加者には、国立京都国際会館の見学、交流会、京都里山 SDGs ラボことすの見学も盛り込んだ。最終的に、オンラインでの海外の参加者との英語での議論も行いながら、6つのテーマごとに定めた3〜4個の小テーマに沿って、それぞれアウトカムをまとめショートプレゼンとして発表する時間を設けた。

事後アンケートからは、普段出会わない「すごい同世代」に会えて刺激をもらった、英語を実際に使う初めての機会となった、長時間に渡って地球環境や持続可能性について議論するのは初めてで充実していた、SDGsの本質を改めて考えるきっかけとなった、などの感想があった。今後は、2023年度から継続して、さらなる展開を行う予定である。

参加者の集合写真



【京北めぐる市】

2022年度も、エコ〜るど京大のメンバーは、京北地域の「京都里山 SDGs ラボ（ことす）」で毎月開催されている「京北めぐる市」に、スタッフとして参加した。

京都市右京区北部に位置する京北地域は、京都市中心部から車で1時間程度の場所にあり、北山杉の名産地として知られる京都を代表する里山である。この京北地域で、SDGsの社会実装を目指す産学公連携の団体「京都超 SDGs コンソーシアム」を中心とした地域づくりが2021年度に本格始動し、エコ〜るど京大は関連学生団体としてこれに参画した。活動の中心となっているのは、元京北第一小学校を活用した「京都里山 SDGs ラボ（ことす）」という施設である。「こと

す」とは、SDGs 達成に向けて”ことをおこす”、”ことをなす”という意味を込めてつけられた愛称である。ことすでは、地域の住民・学校・事業者や、企業や個人の利用者が、里山の自然の中のゆとりの空間での快適なビジネス拠点として活用できる場であり、SDGs・持続可能性を達成・実現する中山間地域モデル構築を目指した様々な社会実装を試み、発信する場である。また、汚れたプラスチックは洗って干してから捨てるなど徹底したごみ分別を行う他、生ごみはコンポストやバイオガスプラントで処理をする、アップサイクルによって生まれ変わった商品の製作や見学が出来るなど、SDGs について学び、実践できる場という役割も果たしている。

ことすで毎月第4土曜日に行われるのが「京北めぐる市」である。エコ〜るど京大のメンバーも、スタッフとして継続的にこのイベントに携わっている。「京北めぐる市」は、「物と想いがめぐるフリーマーケット」であり、京北の地域食材を使った飲食ブースや料理教室、北山杉からマイ箸を作る木工体験、農業体験・森林散策・アユ釣り体験などの自然体験、ごみ拾いなど様々なイベントが一挙に行われている。また、豪華なゲストを招いて、SDGs に関する内容を問う「SDGs 問答」も、オンサイトとオンラインのハイブリッド形式で公開収録している。京北めぐる市は来年度も継続して行われるため、引き続き協力をしていく予定である。

【メディア・イベントへの出演・出展】

2022年度も、エコ〜るど京大として、メディアへの出演やイベントの出展を多数行った。

●中京区いきいき市民活動センターSDGs イベント

2022年6月26日に中京区いきいき市民活動センターで、小中学生を対象に講演会を行った。プラスチック、食品ロス、再生可能エネルギーについて、現状を知ってもらい身近に行動できることは何か考えてもらうきっかけとなった。

中京区いきいき市民活動センターでの講演の様子



●新京極夏祭り

2022年8月21日には新京極夏祭りに出展した。新京極夏祭りは公民連携公園利活用トライアル事業が新京極通150周年記念事業などと連携し、新京極公園内に多世代の人々が交り合う日常的な風景をつくる基盤の作成、持続可能な運営体制の確立を目的にしたイベントである。エコ〜るど京大では京北地域で採れた野菜や樹々の会の商品の販売と北山杉のお箸作り、マイボトルダンスの披露を行った。悪天候のため販売時間は短かったものの、来場者に楽しんでもらうことが出来た。また、マイボトルダンスを関係者にも踊ってもらい活動の普及に役立った。

エコ〜るど京大のブースの様子



●第2回資源循環勉強会

2022年9月27日には、大阪市で開かれた第2回資源循環勉強会（主催：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会）に参加した。これは、2025年日本国際博

覧会協会（大阪・関西万博）の持続可能な運営を目指し、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなどの実現を具体化、実行していくための勉強会である。エコ〜るど京大は、この勉強会で活動紹介をする機会をいただき、プラスチックとの持続可能な付き合い方を考える「京都大学プラ・イド革命」や、「京都里山SDGsラボ（ことす）」での取り組みなど、資源循環に関する活動の発表を行った。

●脱炭素ライフスタイル実践ワークショップ

2022年10月28日には、脱炭素ライフスタイル実践ワークショップ（主催：（公財）京都市環境保全活動推進協会企画広報室）に登壇し活動紹介を行った。他大学の団体や参加者とのワークショップで、環境に関して活動している様々な団体と協力してやりたいことについて考えた。

●『笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ』もうちょいで6000回スペシャル

2022年10月29日にはKBS京都主催の「『笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ』もうちょいで6000回スペシャル」というイベントでブース出展とパネルディスカッションを行った。KBS京都でKYOTO SDGsというキャンペーンが行われていたため、エコ〜るど京大のブースでは「かばんの中のプラ」や「マイボトルダンス」の展示を行った。「かばんの中のプラ」とは普段持ち歩いているかばんの中身を確認し、日常生活にどれだけプラスチック製品が使用されているかを改めて意識してもらう取り組みである。パネルディスカッションでは和歌山食と暮らしプロジェクト・NPO クリーン&コネクト和歌山と共にそれぞれの環境に対する取り組みを紹介し、イベントに集まった人々だけでなく同時配信されたYouTubeライブの視聴者の環境意識を高めることができた。

●「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

2022年11月14日には、国際会館で行われた京都地球環境の殿堂にてブース出展を行った。京北での地域づくりに関する活動やアップサイクルについて、訪れた多くの人々に知ってもらう機会となった。

●亀岡市サイエンスフェスタ 2022

2022 年 11 月 23 日に亀岡市の道の駅「ガレリア亀岡」で行われた、主に子供たちを対象にした科学イベントである、亀岡市サイエンスフェスタ2022（主催：亀岡市・亀岡市教育委員会）への出展を行った。エコ〜るど京大は北山杉からマイ箸を作るブースを出展した。出展には小学生を始めとする多くの子供たちが訪れ、用意していた箸の材料が無くなるほどの盛況ぶりであった。また、「京都超 SDGs コンソーシアム」の参加企業であるソフトバンク株式会社による、人型ロボット Pepper のマイボトルダンス公演も行われた。マイボトルダンスとは、マイボトルの普及を目指して作成された、エコ〜るど京大オリジナルの歌とダンスである。エコ〜るど京大のメンバーも、Pepper と一緒にマイボトルダンスを踊り、多くの子供たちに楽しんでもらうことができた。

●NHK「未来王 2030」

2022 年 12 月 11 日に NHK 総合で放送された「未来王 2030」に出演した。「未来王 2030」はクイズを通して SDGs を学ぶエンターテインメント番組である。エコ〜るど京大から 2 名のメンバーが参加した。東京・渋谷のスタジオで行われた本選では、「お金（経済）」「環境」「世の中の謎ルール（人権関連）」の 3 テーマについてクイズが出題された。エコ〜るど京大チームはまんべんなく得点を重ね、スピーチバトル形式で行われる決勝戦に進出した。スピーチバトルでは物事を SDGs の視点でとらえる「SDGs めがね」を提唱し、「第 3 代未来王」に輝いた。

「未来王 2030」でのスピーチバトル



●国際女性デー（HAPPY WOMAN FESTA OSAKA 2023）

2023 年 3 月 4 日には、あべのハルカスで行われた国際女性デーのイベントに登壇した。メンバー全員が黄色いものを身につけ、活動紹介とマイボトルダンスの披露、クイズを行った。

国際女性デー登壇後の集合写真



【2022 年度版環境早見表（新入生向けリーフレット）】

環境早見表とは、エコ〜るど京大が作成し、毎年 4 月に新入生全員に配布しているリーフレットである。環境や SDGs について新入生が考え、行動するきっかけとしてもらうことを目的としている。2022 年度版環境早見表では、2022 年が京都大学創立 125 周年であることを踏まえ、歴代の京都大学卒業生にエコ〜るど京大のメンバーがインタビューし、その内容をまとめた。インタビューの内容は、学生時代の思い出や関心のあった問題、SDGs 達成を目指す時代に生きる京大生へのメッセージなどであり、大学教授や京都大学の元総長、映画監督や伝統文化プロデューサー、衆議院議員など、各界でご活躍されている 12 名の先輩方に、熱い思いをお伺いできた。また、インタビューはリーフレットに掲載されている二次元コードを読み取ることで、全容が分かるように工夫した。

リーフレットのの中面



- ・ 濱崎加奈子様（伝統文化プロデューサー・有斐斎弘道館館長 1996 年文学部卒）
- ・ 酒井千佳様（天気予報士・フリーキャスター 2008 年工学部卒）
- ・ 井上有加様（株式会社井上建築取締役・林業女子会発起人 2010 年農学部卒）
- ・ 横山恵利香様（ブルームバグニュース東京支局記者・エコ〜るど京大 OG 2018 年法学部卒）

他にも、大学でのごみ分別や学生生活で気軽に実践できる環境配慮型行動、学内で環境に配慮された建物や取り組み、エコ〜るど京大の活動内容も掲載した。なお、このリーフレットは、エコ〜るど京大のイベント等の際にも配布されており、新入生のみならず多くの方々にご覧いただくことができた。

インタビューご協力頂いた方々の一覧（卒業年順・肩書は 2022 年 3 月当時）

- ・ 山内潤三様（西北大学（中華人民共和国）名誉教授 1952 年文学部卒）
- ・ 尾池和夫様（静岡県立大学学長・第 24 代京都大学総長 1963 年理学部卒）
- ・ 本庶佑様（京都大学特別教授 1966 年医学部卒）
- ・ 山極壽一様（総合地球環境学研究所所長・前 京都大学総長 1975 年理学部卒）
- ・ 稲垣恭子様（京都大学理事・副学長 1978 年教育学部卒）
- ・ 鵜野祐介様（立命館大学文学部教授 1985 年教育学部卒）
- ・ 黒崎博様（映画監督・映像ディレクター 1992 年文学部卒）
- ・ 細野豪志様（衆議院議員 1995 年法学部卒）

1. 6. 2 エコ宣言ウェブサイトの運用報告

大学構成員の環境配慮行動のきっかけとすることを目的に「京都大学環境エネルギー情報サイト」を2009年度より開設している。近年は参加型企画「エ

コ〜るど京大」等を通じたSDGsに関する環境配慮行動啓発にウイングを広げ啓発活動が続けている。2022年度のウェブサイト更新履歴は表1のとおりである。今年度の更新回数は計40回となり、2週間に1回以上の更新を行うことができた。

表1 エコ宣言ウェブサイト 令和4年度の更新履歴（令和5年3月31日現在）

更新日	コンテンツ	記事タイトル / 更新概要
2022.4.1	新入生向け企画	2022年度新入生向けリーフレットを作成しました
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	横山恵利香様：自由に発言できる学風を大切に
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	井上有加様：キャンパスを飛び出して 森林と向き合う
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	酒井千佳様：一人一人の選択が未来につながる
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	濱崎加奈子様：伝統文化が息づく京都のまちから学ぼう
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	細野豪志様：学生ならではの経験、出会い、行動力を大切に
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	黒崎博監督：「無駄」を謳歌できる環境へようこそ
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	鶴野祐介先生：ぼちぼちでええやないか
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	稲垣恭子先生：授業だけじゃない、大学生活を通じた豊かな「学び」
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	山極壽一先生：身体を通して
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	本庶佑先生：まだまだ混沌としていて奥深い生命科学
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	尾池和夫先生：知恵の蓄積する場所で「これぞ」ということへの学習を深めよう
2022.4.1	2022年新入生リーフレット	山内潤三様：「如何にして生きるのか」それが生命なのだ。
2022.4.1	イベント報告	株式会社ニコン様が「ニコン SDGs すごろく」を作成しました！
2022.4.25	京都大学プラ・イド革命	【マイ・プラ・ダイアリー】一緒に学んで、調査する「プラスチック・エコ博士」大募集！
2022.4.28	フリマ	ECOLE DE KYODAI presents FLEA MARKET
2022.5.2	—	マイ・プラ・ダイアリー 参加者ページ
2022.5.22	京北	【6/18】創立125周年記念アカデミックマルシェに出展します！
2022.6.14	—	腐葉土の配布（6/20日、23日 10:00-12:00, 13:00-15:00）
2022.6.23	京北	京都大学創立125周年記念アカデミックマルシェに出展しました！
2022.8.17	京北、マイボトルダンス	【8/20・21】出張京北めぐる市・エコ〜るど京大と学ぶSDGs@新京極公園
2022.8.21	京北、SDGsリーダーズ育成、イベント報告	SPARKU2期生が新京野菜の料理教室を開催しました！
2022.8.28	イベント報告	新京極夏祭りに参加しました！
2022.10.15	イベント報告	新潟県立柏崎高校 修学旅行で「SDGs×京都」レクチャーを行いました！
2022.10.28	今日も明日もSDGs	【11/4～11/29】今日も明日もSDGs！第6弾がやってくる！
2022.11.4	—	京都大学地球環境学舎浅利美鈴研究室が「京都SDGsパートナー制度」に登録されました

更新日	コンテンツ	記事タイトル / 更新概要
2022.11.9	Kistory	【終了しました】寄付で集まった着物の譲渡イベント“京北きもの days in ことす”
2022.11.12	SDGs リーダーズ育成	SPARKU 第3期 さすてな京都実地研修を開催しました！
2022.11.20	—	京都市立安朱小学校の SDGs 学習成果の発表・展示を 12 月に行います！
2022.11.25	—	青稜中学校修学旅行生に講義をさせて頂きました。
2022.12.12	—	クイズ番組『未来王 2030』にて優勝し、未来王となりました！
2022.12.14	—	仙台高校の皆様に SDGs 出前講座を実施しました
2022.12.14	—	亀岡市サイエンスフェスタに出展しました
2022.12.16	京北、イベント報告、Kistory	【開催報告】“京北きもの days in ことす”
2023.1.13	京都大学プラ・イド革命	2023/3/1【共催イベント】スーパー調査好事例報告会
2023.1.24	京北、SDGs リーダーズ育成	【3/25 開催 WS】農山村を持続可能で豊かな暮らしの教育拠点にするための実践研究—京都の里山「京北」を舞台に
2023.1.27	報告	食品ロスに関するサイトでエコ〜るど京大の取り組みが紹介されました！
2023.2.3	京北、SDGs リーダーズ育成	参加者募集【3/21-23 開催】地球環境ユースサミット 2023 in KYOTO—持続可能な未来を議論する
2023.2.13	Kistory	【3/17】Kistory 開催・参加者募集のお知らせ
2023.2.20	—	【イベント告知】SPARKU 第3期 最終成果発表会を開催します！